

(1) 地域連携部会

(2) 安全・安心部会

(3) 学校評価部会

【協議1】今年度の取組について (前半の報告に対する意見)

《委員からの意見①》

- ・南支援学校は災害時に避難所として使える施設だと思っていたが、岡山市が開設した避難場所がいっぱいになったときに開設される施設であるため、利用したいときに利用できないことがわかった。
- ・地震の訓練内容について教えてほしい。
- ・児童生徒、先生方のための必要な物資や備蓄品はあるのか。
- ・箕島小への避難には時間がかかり、歩道、用水路、旧児島線道路の安全の確認が必要。線路を横切る方法もある。
- ・箕島小の受入体制は現実的にできるかどうか確認が必要ではないか。

《委員からの意見②》

- ・地域の方に南支援学校を知っていただく取組、危機管理室への訪問は良かった。
- ・液状化によって、垂直移動、避難移動の難しさがある。
- ・避難所の2次的な扱いは児童生徒がいる時間も考えておくこと。
- ・箕島小への移動については、完了したときの過ごし方を考える必要がある。配慮することが多いのではないかと。事前に協議しておくことが必要である。
- ・家族との連絡手段を確認しておくことが必要。

《委員からの意見③》

- ・児童や生徒が生活しているときの対応をしっかりと考える。
- ・プレハブ棟の強度を確認しておく必要がある。
- ・箕島小への移動は、広い道路を利用し、受入体制を事前に対応を考えておくこと。
- ・児島湖耐震化工事で津波の影響が少なくなると聞いている。
- ・岡山市が開設する避難所(小学校、中学校、公民館)の後に、南支援学校が2次的避難施設になることがよく分かった。

《委員からの意見④》

- ・防災語ろう会9月定例会で、興除中を想定して避難所運営シミュレーションをした。要配慮者となる、高齢者、障害者、外国人等の対応はキャパが足りなかった。南支援学校のように整っている施設を使いやすくできるシステムが構築されると良い。
- ・町内の自主防衛組織に、コミュニティハウスを管理するシステムがある。
- ・児童生徒が箕島小に避難移動するための道路を、数パターンを考えておく。
- ・箕島小のキャパも事前の協議で確認しておく。南支援から400人、箕島小380人、住民の方も大勢避難してくるので、どのような避難場所の運営をするか考えておく。

【協議2】今後の取組について

《委員からの意見①》

- ・児童生徒たちが、実際に避難経路の（すべてではなくてよいが）校外歩行練習をした方が良いのでは。そのとき、何を想定して行うのか、意味づけが大切になる。

《委員からの意見②》

- ・地域の方に情報の共有が必要。被災者となったとき、2次避難所ではあるが、何をどうできるか、伝え、発信する必要がある。
- ・今年度、岡山市、岡山県で高齢者や障害者の個別の避難計画をつくらなければいけない。希望者が手を上げる方式で、民生委員も全て把握できていない。
- ・2次避難場所としての役割を、地域の方に知っていただく。

《委員からの意見③》

- ・地域では個別の避難計画の作成がなかなか進んでいない。
- ・津波等の被災があったときに、児童生徒が学校にいる場合にはそちらが優先で、南支援学校は2次避難場所としてとらえ、健全者は小学校、中学校、公民館へ避難する。ただ、障害者やひとり暮らしの方の避難がやはり難しい。

《委員からの意見④》

- ・9月の地域での初動訓練は本当にたいへんだった。被災したときの家族の方の受入の訓練や引き渡しの訓練が大切である。

《それぞれの委員からの意見のまとめより》

※来年度取り組みたいこと

- ・南支援学校が2次的な避難所としての施設であることの説明会
時期は、7月上旬。
地域の方だけでなく民生委員の方にも参加していただく。
可能であれば、岡山市危機管理室の方に来ていただき、「防災」について話を伺う。
このときに2次的な避難について説明していただく。
- ・いろいろな災害を想定した訓練
火災、地震の訓練も、災害発生の想定場面を増やして実施する。
避難歩行訓練も行う。
- ・南海トラフ大地震の際、箕島小へ安全・安心な避難移動
箕島小と受入体制の協議
避難経路の複数設定
保護者の引き渡し方法とその知らせ方

